

ゴーヘッドズ 速報

Goaheads

第33号 平成21年10月11日

照明と四球の差に明暗・・・

さよならチャンスに深沢バットが燃焼せず・・・



10/10 (土)今日はダブルヘッダー、2試合目は、品川の天王洲公園野球場に出向き、スコブルズとオープン戦を行った。都内の道路が予想外にすいていたため、開始1時間以上前には、現地に到着したが、目の前に見えた使用グラウンドにメンバー唖然、人工芝とはほど遠い色をしていたのである。色から来るグラウンドは、テニスの超超ハードコートがイメージされ、例え、横にボールが飛んできたとしても、横っ飛びなど、全くもって、不可能なように感じた。気づくと、ある程度時間が経過しても、未だ対戦相手が現れない。「この場所であっていいのか?」と告げられた言葉に、正直どっきり、すぐさま携帯で、HPを確認し、誤りの無い事の確認をした後は、相手チームに確認の電話を行った。そしたら、何と、対戦相手は目の前で、ゲーム中であつたのである。ほっとしたのも束の間、もっとそのゲームを見ておけば、良かった・・・と思った。さあ、時間だ、グラウンドに入った第一感触は、目で感じた第一印象とは異なり、まー、大丈夫かと思う、人工芝であつた。ゲームは我がチームの後攻で開幕。先発は政司、前節で素晴らしい内容であつただけに、今日はアップも行っており、そのピッチングにメンバー同期待が込められていた。初回、相手先頭打者の2球目、イージーに打ち取ったレフトフライ、しかし、仁王立ちし、動かぬレフト江越、何と早くも照明攻撃を喰らっていた。後続を捕飛に取り1アウト、しかし、2番・3番の打者の時に、盗塁を決められ、1アウト3塁と早くもピンチ。3、4番と連続四球を献上、今度は大量失点の予感、5番打者に綺麗にセンター前に運ばれ1点失点、しかし、センター山田が、素早く捕球し、すぐさま、中継に返球、そのボールを中継哲也が、ホームに送球、見事に中継プレーで、この回を1失点で抑えた。このゲームの安打数は、5つあつたが、クリーンは哲也の左柵直撃の1本、他4本は、全て内野安打、その内野安打を結果進塁打で、効率良く点に絡め、2点を返した。しかし、惜しい走塁が、7回に出てしまった。次の塁に進むべきところを、打球方向が同じという事で、ハーフではなく、投球に背を向け、帰塁してしまった。サードに進む走者が、打球方向及び野手の送球方向、はたまた、進むベースに野手の存在等、複合的に判断していれば、2アウト1、3塁になった。次打者が、投手のエラーを誘った打球を打っただけに、この間にホームイン出来たかも知れず、同点さよならと絶好の投手揺さぶりシーンが出来た。打つことも、捕る事も共に、大事だが、走る事も、非常に大事な事である。貪欲に次の塁を盗む、その姿勢が相手野手にもプレッシャーを与える事は事実である。そんな走塁を共に、考えたいですね。盗塁もそう、アウトになる事を恐れすぎずに、モーションを盗み(ここは大事)、自信をもって、塁を盗もう。まーそうは言いながら、絶好なさよなら場面にクリーンアップがヒット1本を打てないとは、情けない・・・さあ、K・E打ち込むぞ! 次週の悲願の1勝を目指して! 林のDP良かった! 先発は四球が多かったね・・・